



天 塩 国 要 覧

留萌市史

留萌の命名は明治二年

「昨年完成された『留萌市史』は、市民の方にも頒布されましたが、冊数が少ないためご希望に添えませんでしたので、広報では、ことし年間を通して『留萌市史』を抜粋して掲載いたします。」

留萌の命名……

留萌と言う地名は、アイヌ語の「ルモツペ」からきている。ルモツペとは静かなる川という意見で、語源の由来は「此川湖汐遡ること数里、水流為に遅く、此名あり」といわれている。留萌の地名の初見は「御国絵図」にある「ツルモツペ」である。

この絵図は松前藩主矩広の命で寛文元年（一六六一）吉田作兵衛が蝦夷地を巡行して作成したものであった。

その後、安永年間（一七七二～八十年）と思われる「蝦夷地案内記録」には、留萌を「ルモツペ」と記され、文化期以降の資料はすべて「ルモツペ」か「ルモツペ」を用いている。

このアイヌ語の「ルモツペ」を松浦武四郎が留萌もしくは留持という地名が妥当であろうと提言し、開拓使は検討の結果、明治二年、ルモツペは留萌という漢字名になった。

その後、留萌の呼名は「ルモエ」が「ルモイ」となり、また「ルモエ」が「ルモイ」になって現在におよんでいる。ルモエがルモイになった理由は留萌住民の大多数が東北・北陸地方の人であったために「エ」と「イ」の発音が明確でなく、自然にエがイになったのであろう。また、ルモエという響きより、ルモイという響きの聞こえが良いこと、都会的響きを与えるためルモエからルモイとなったのだとも思われる。

明治初期の北海道と留萌

明治維新という新しい時代の波は、北辺の蝦夷地にも押しよせた。明治二年七月、蝦夷地と呼名は松浦武四郎案を基本として検討の結果「北海道」と改称された。

武四郎は自著「山川地理取調図」を参考として、アイヌの意志も十分尊重した上で選定したという「国名ノ議ニ付申上候書付」を提出した。

その書の中に、留萌・厚田・浜益・増毛・苫前・天塩・中川・上川の八郡を含む国を天塩国とする意見を出した。

また、苫前・留萌・天売・焼尻のアイヌ人は、大河のある天塩山中が発生源であるとして、この辺一帯の国名を天塩町と命名することを提案、この結果、厚田・浜益を除いた増毛・留萌など六郡を含んで「天塩国」と命名した。

安全は人に頼らず自分で守ろう



スリッパすることを念頭に

除雪をしていない歩道がよくありますが、この場合、できるだけ道路の右側を通行するよう心掛けたいものです。

◎判断力が鈍る飲酒運転……

松の内は、なにやかにやとお酒を飲む機会が多いものです。飲酒運転はたいへん危険なことです。運転者自身の自覚が必要なことは勿論、家族や友人など、まわりの人たちの自覚も大切です。

お酒の魅力は、なかなか断ち切れないのですが、命にはかえられません。飲酒運転は絶対にやめたいものです。

◎昨年は9人の方が死亡……

年々増加する交通事故は、全国的な傾向とはいえ、留萌市内でも

昨年は 151件の事故が発生しています。

発生件数 151件、死者9人、負傷者 231人（46年11月末日）と、意外と多く発生しているのです。ちなみに、歩行者の事故を年令別に見ると下表のようになります。歩行者事故の内

幼稚園児の負傷	10人	死者	1人
小中学生	7人		1人
60才以上	2人		0
70才以上	5人		0
その他の人	25人		1人
計	49人		3人

誰も事故に合うなどと考えている人はいるはずがありません。ことしこそ、交通事故を追い出したいものです。